1999～2000年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事

会長	神戸大学泌尿器科教授 守殿貞夫	幹事	神戸大学泌尿器科助教授 荒川創一	坂井瑠実クリニック 坂井瑠実	兵庫県腎移植の会相談役 中道弘一
副会長	住吉川病院顧問 藤田嘉一		兵庫医科大学名誉教授 生駒文彦	兵庫医科大学腎透析学科教授 高光義博	長久クリニック 長久謹三
	兵庫医科大学名誉理事 森村美佐子		兵庫医科大学泌尿器科講師 石橋道男	田口隆子	八馬冨久子
会計監査	神戸大学名誉教授 黒丸正四郎		日本臓器移植ネットワークコーディネーター 菊地耕三	三田・寺植泌尿器科医院 寺植一徳	県立西宮病院腎移植センター部長 福西孝信
	西村多枝子		高砂市民病院名誉院長 後藤武男	兵庫県腎友会副会長 豊永清	県立尼崎病院院名誉院長 藤岡晨宏
			日本臓器移植ネットワークコーディネーター 小中節子	甲南病院副院長 内藤秀宗	神戸大学泌尿器科助手 藤澤正人

三木市民病院泌尿器科部長 松本修

安井眼科医院 安井多津子

全腎協副会長 芳野芳一

兵庫医科大学救急部講師 吉永和正

国際ソロプチミスト神戸東代表

お願い

協会の活動のため、ひきつづき新会員のご紹介と温かいご支援をお願いいたします。

●正会員　個人会員……入会金 7,000円
　　年会費 3,000円
　　団体会員……年会費 10,000円

●賛助会員 ……1口 1,000円

ご寄付・会費振込口座

●さくら銀行　芦屋駅前支店　㊐ 3511181　兵庫腎疾患対策協会
●郵便局　神戸01110－1－9421　兵庫腎疾患対策協会

臓器提供意思表示カード

あなたの意思表示ありがとうございます。
厚生省・(社)日本臓器移植ネットワーク
ドナー情報用全国共通連絡先：0120-22-0149

正しく記入して携帯しましょう。

1999.8.1

Gift of Life

Vol.7

兵庫腎疾患対策協会会報

発行：兵庫腎疾患対策協会
住所：〒659-0093　芦屋市船戸4－1
ラポルテ4F（安井眼科内）
TEL：0797－31－8288
FAX：0797－22－6144

兵庫腎疾患対策協会
神戸大学医学部泌尿器科教授
会長 守殿貞夫

Gift of Life Vol.7が発行されるに際しまして、一言御挨拶を述べさせて頂きます。本年に入り、わが国初の脳死多臓器移植が行われました。マスコミ等の賑やかな報道等、いささか過熱状態ではと思っておりましたが、全ての手術が成功裡に終えられたことは誠に喜ばしいことでした。2例め以降も順調に進んでいるようですし、また、我々の仲間のコーディネーター菊地耕三氏および小中節子様がそれら移植のコーディネーターとしてご活躍されているのを拝読し、本当に喜んでいる次第です。

本対策協会は1990年9月に設立されて以来、9年を経過しようとしています。その間、年1～2回の講演会及び新聞啓蒙広告等により腎移植推進運動を行ってまいりました。しかし、県内では昨年来脳死下はもちろん心臓死下の献腎さえ、1例もございません。これは私の責任でもあります。啓蒙運動等においての努力不足、またその方法に問題があるのではと考えております。一般の人々における移植医療への関心は相当普及してきていますので我々医療人の移植医療への関心を一層高めて頂くため、医師をはじめコメディカルの皆様方に常に移植医療のことを頭の片隅に置いていただけるような何か新しい活動が必要なのではと考えております。具体的な活動についてはこれから会員の皆様方とよく相談の上決めさせて頂くつもりです。また、臓器移植コーディネーターの育成も本協会の一つの役割かもしれません。

最後に、会員の皆様にご提案がございます。それは、本協会の再編成であります。今や脳死下の臓器移植の時代に入りました。移植医療は腎に限らず心臓をはじめ多くの臓器が対象になります。本協会は腎移植の推進を中心として活動してまいりましたが、腎臓にのみ拘っていますと時代の波に取り残されます。本協会の事業内容の再検討とそれに係っての本協会名の変更などについてあらためてご相談申しあげたいと思っております。

平成11年5月27日　記

ご遺稿

この会報のために5月に筆述されたものをご遺稿として掲載させていただきます。

兵庫腎疾患対策協会
名誉会長 故石神襄次

石神襄次名誉会長は、7月10日ご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

先日、高知の病院で、脳死患者さんの臓器が提供され、全国各地の病院で、腎、心、肝移植が行われ、それぞれ、移植後の経過も良好で全国に明るい話題を呼んでいます。我が国では一昨年、脳死法案が成立して以来、本格的な脳死下での移植医療が行われた訳で、将来に大きな希望を与えてくれました。

従来、我が国では、脳死法案が成立後も肉親による生体腎移植および心臓死献腎移植が行われてきました。今後、脳死患者さんからの臓器提供が増えれば、米国や諸外国からの腎の提供を受けるような事もなくなりましょう。今回の提供が引き金となって臓器移植を待っておられる多くの人々が救われるものと考えます。

本協会では発会以来、単に腎移植の普及のみならず、腎不全の状態に至る迄の腎疾患患者の予防や治療、対策にも努力を重ねてまいりました。しかしながら、今回の移植を契機として、腎以外の臓器移植にも活動の輪を広げて行きたいと考えています。今後とも皆様の暖かい御協力、御援助をお願いいたします。

追悼文

追悼の辞

謹んで故石神襄次前会長に捧げます。

石神先生、いろいろと有難うございました。先生は高邁な理想と信念に基づいた卓越した指導力により、長年にわたり社会に貢献された高潔の士であられました。一方では、非常に温かみのある、ユーモアに富んだ、時にはいたずらっぽいジョークを交えた和やかな雰囲気作りに努力されるなど、周囲の人々によく気を使われ、気配りされるのが常でした。

先生は、昭和20年に京都帝国大学医学部医学科を卒業され、昭和32年に35才の若さで大阪医科大学泌尿器科学講座の教授に就任されました。昭和41年には、神戸医科大学泌尿器科学講座教授に任用され、以後この神戸の地で33年間を過ごされました。

石神先生は、教授職の後半には神戸大学医学部附属病院長、神戸大学医学部附属看護学校長を兼任されたのち、昭和59年には国立神戸病院長になられ、昭和62年に同病院名誉院長に就任されております。また、昭和60年に神戸大学名誉教授の称号を得ておられます。

先生は、上記国立神戸病院院長を退任された昭和62年の春に、長い公職の激務のお疲れからか、体調を崩されました。そして、同年6月に肝臓の一部を摘出する大手術を受けられ、年が明け、ようやく体力を回復されつつありました昭和63年春のある日、（以下、石神先生による思いでの記より抜粋）「坂井瑠実先生が原　信二先生とともに、拙宅に来られ、彼女の所属しておられるソロプチミストが中心になり、県透析医会の協力も得て、腎疾患の予防、総合的治療の促進をはかる会を作ることになっているが是非その会長にという要請があった。とくに、腎移植の症例がわが国ではその他の文明国に較べて極めて少なく、これは腎提供者が少ないのが原因で、今まで実施した例でもほとんどが母親の腎臓を貰っている現状である。そこで腎を大切にしていますかとのスローガンを掲げて啓蒙活動を行いたいとのことであった。その趣旨は全く同感であったが、何分にも元気になったといっても術後まだ1年しか経っておらず、何時又再発するかも知れぬ状態であったので一度は辞退したが身体の許す限りでよいからと頼まれた。考えてみると、今度の病気にしてもいろいろの人達に随分心配をかけお世話になりながらこのまま世を去るのはいかにも心苦しく、元気な間は、なにか役に立つ仕事を手伝って恩返しをしなければと思っていただけに、かえって迷惑をかけるのを承知の上でお引き受けすることとした。」

こうして、兵庫腎疾患対策協会が設立され、石神先生は10年間、初代会長を務められ、本会の基盤作りとその発展に大きく貢献されました。思えば、先生にとって自らの人生の締めくくりの10年を、闘病というつらさを決して表には出されず、最も大きな使命感をもって取り組まれたのが、本会を育てるというお仕事ではなかったでしょうか。数々の啓蒙的事業や講演会、移植コーディネーター育成の援助といった価値ある本会の活動は、石神会長の腎疾患対策、移植推進への尽きぬ情熱と、会を支えてきて下さった国際ソロプチミスト神戸東の皆様方、幹事諸氏、そして会員各位の大きな和が推し進めたものでありました。先生は日頃「自分の歩いている現実を美しい花園とするよりも、むしろ自分が歩いた後に更に美しい花園を残すということを考えるべきである」とおっしゃっておられ、かつその通りに実践してこられました。兵庫腎疾患対策協会の足跡にも、石神先生はたくさんの美しい花を植えて、育てて下さいました。後事を託された私どもは、この花園を枯らすことなく、本会の発展と、社会貢献にさらに努力することが、石神先生の御恩に報いることと肝に銘じている次第です。

先生、どうかご安心下さい。

平成11年7月26日

兵庫腎疾患対策協会会長　　守殿　貞夫

石神襄次先生を想う

石神襄次先生が到々逝ってしまわれました。この兵庫腎疾患対策協会の私達を置き去りにして…。

国際ソロプチミスト神戸東の私達は、とにかく石神先生が大好きでした。先生が肝臓癌で闘病生活を送っておられる事は承知の上で、この協会の設立時に会長をお願いしているので、いつかは先生とお別れしなければならない時がやって来るであろうと覚悟はしていたのですが、でもひょっとして（奇跡が起きるかも知れないし、いえ1日でも長生きしていらっしゃる間にもっと有効な治療法が見付かるかも分らない）などと一縷の望みをつないでいたのですが、あゝでもやっぱりお別れの時が来てしまいました。

石神襄次先生と云うお方は一昔前の医学部(臨床部門)教授の典型的なイメージの先生でした。学問研究の際や、教室員学生の指導には非常に厳しかったと聞き及んでおりますが、医学的には門外漢のソロプチミストの私達には非常に寛大で優しく接して下さいました。

遅々として進展をみなかった、当協会の活動でしたが今年に入って脳死臓器移植が4例も出て、其の際に当協会が養成した菊地耕三氏や当協会幹事の小中節子女史がコーディネーターとして活躍された様子をテレビや新聞報道で見聞きされ、協会の存在価値が再確認出来た事で先生もさぞ御安心なさったことでしょう。

石神先生の最後のライフワークとして携わって下さったこの兵庫腎疾患対策協会を、残された私達で更に発展させ、病魔に苦しんでおられる人達の一助になり得るように努力しなければならないと思います。

石神先生の在りし日のあのダンディーで、にこやかなお顔がまだ目に焼きついていて、文字が涙で滲みます。お別れはまだ早すぎますよ、石神先生!!

平成11年7月26日

兵庫腎疾患対策協会幹事　　安井　多津子

膵移植

神戸大学医学部第一外科
教授 黒田嘉和

膵移植は若年発症のインスリン依存型糖尿病（insulin dependent diabetes mellitus:IDDM）の治療及びIDDMによる心、腎、網膜などの合併症の予防や進行阻止を目的に行われる。

膵移植には膵を臓器として血行再建を行ない移植する膵臓移植と、内分泌組織であるランゲルハンス島（ラ島）のみを分離、移植する膵島移植に大別される。さらにドナーの違いにより脳死、心停止、生体膵移植に分類できる。脳死体からの全膵十二指腸移植が最も標準的な膵移植術式であるが、部分膵移植や心停止後摘出膵の移植も行われてきた。

膵臓移植は既に糖尿病性腎症に陥った患者を適応とするのが一般的で、膵腎同時移植や腎移植後膵移植の形で行われるが、腎不全のない場合でも不安定糖尿病などに対し膵単独移植を行う施設もある。

膵臓移植の標準術式は右腸骨窩への全膵十二指腸移植で、腸骨動静脈を用いて血行再建を行う。膵外分泌処理は、安全性を優先し十二指腸膀胱吻合にて膵液を膀胱にドレナージするのが一般的であるが、最近では生理的なルートである腸管にドレナージする場合も多い。膵腎同時移植では左腸骨窩へ腎移植を行う。

膵臓移植は1997年までに米国を中心に10,000例以上の報告があり、年々増加している。その成績も1994年以降では1年患者生存率、膵グラフト生着率、腎グラフト生着率は各々94%、82%、90%と向上している。

本日は膵臓移植の問題点を解決すべく教室で行ってきた動物実験の結果、および現在米国で既に臨床応用されている我々が開発した膵の二層法保存および拒絶反応早期診断法（Pancreatic Secretory Trypsin Inhibitor(PSTI)）について報告させていただきました。

神戸大学第一外科学教室が膵臓移植の認定施設となり、今後日本での臨床膵移植の実施に向けて一層努力をしていきたいと思っておりますので、御支援をよろしくお願い申し上げます。

市民公開講座「腎臓病の克服を目指して」開催のお知らせ

第29回日本腎臓学会西部学術大会にあわせて兵庫腎疾患対策協会、兵庫県腎友会ほかとの共催で市民公開講座「腎臓病の克服を目指して」を下記の要領で開催いたします。保存期や透析期腎不全患者さんのための食品展示も企画しておりますので、会員の皆様もお誘い合わせの上ご参加のほど宜しくお願いいたします。

日　　時：10月9日(土)14時～17時　　主催：第29回日本腎臓学会西部学術大会
場　　所：神戸商工会議所 神商ホールA（第8会場）　共催：兵庫腎疾患対策協会
総合司会：藤田嘉一（住吉川病院顧問）　　兵庫県腎友会 ほか

講演

1.蛋白尿・血尿がみつかったら　（大阪大学健康体育部　安東明夫先生）

2.腎臓病と食事

a）腎臓病の進行抑制を目指して　（昭和大学藤が丘病院内科　出浦照國先生）

b）食事療法の実際

Ⅰ.腎炎・腎不全の食事療法　（兵庫医科大学栄養部　田邊節子先生）

Ⅱ.透析合併症を防ぐために　（川崎病院給食課　昆美恵子先生）

お問い合わせ　第29回日本腎臓学会西部学術大会 事務局　兵庫医科大学 腎透析学　高光義博
電話 0798-45-6521　FAX 0798-45-6880

4例の脳死移植を終えて

日本臓器移植ネットワーク
移植コーディネーター　小中節子

1．はじめに

臓器の移植に関する法律が施行されて1年4ヶ月経た1999年2月に、日本では30年振りに脳死後提供された臓器移植が始まり、その後、短い間に新たな3人の方からの脳死移植が行われました。提供者本人の生前意思を生かす事を、非常に辛い状況の中で其々のご家族が決断され、臓器不全で苦しむ、余命幾ばくもない13人の患者さんと2人の視力障害を持つ患者さんが救われました。

4年前、私は日本臓器移植ネットワークの設立と同時に、看護職を辞職し、移植コーディネーターとして、同ネットワークへ就職いたしました。当初より大それた目標“社会における移植医療の認知”を掲げていたのを今更ながら思い出します。移植コーディネーターとしての業務を行う中で、献腎をされたご家族や提供施設の主治医との関わりで社会全般への普及啓発の重要性を痛感し、海外研修では移植システムの重要性を学びました。この経験から学んだ事を生かし、臓器移植法の規定に添った脳死移植における移植コーディネーター業務基準を準備し、今般の脳死移植に関わりました。

今回は、脳死移植時の日本臓器移植ネットワークと移植コーディネーターが担った役割についてまとめてみました。

2．脳死移植について

日本臓器移植ネットワークは、ご本人とご家族の意思を尊重すべく、日本臓器移植ネットワークの本部内に対策本部を設置し、移植コーディネーターを臓器提供施設に派遣しました。派遣された移植コーディネーターは臓器提供者の情報収集、提供協力病院及び臓器提供者ご家族への対応、臓器提供者の血液検査の調整、摘出チームの編成と調整、臓器摘出の調整、迅速な臓器搬送などの役割を、対策本部内の移植コーディネーターは基準に基づき適正かつ公平な移植希望者の選択を担いました。日本で実際に最初の脳死移植の移植システムが運用されましたが、今まで行われてきた献腎移植以上に臓器搬送など多くの各関連機関の多大なご支援を頂き臓器の提供から移植までを繋ぐ事ができました。

私は今回の脳死移植で主としてご家族への対応の担当として関わりました。ご家族への臓器提供の説明は、法律や検査・手術内容など、最愛の人の死を前にしたご家族の心情を考えるとお話し難い内容もありましたが、できるだけ理解しやすく誤りの無い内容に心掛け、ご家族がご決断されるのをご支援致しました。臓器提供された4人の方は、生前にご家族と臓器移植について話し合われ、臓器提供意思をカードに記入されていました。ご家族は残された本人の最後の意思を大切に真剣に考えられ、ご本人の意思を生かしたいと強く願われ、臓器提供を決断しました。死亡が確定した後、ご家族へは臓器摘出までの経過を逐一報告すると共に、ご家族ができるだけゆっくり静かにご面会できるように配慮するように努めようとしました。しかし、今回の脳死移植では全般を通して、テレビや新聞での報道が相次ぎ、十分にご家族に静かな時を提供する事は非常に困難であり、その報道の内容で動揺されるご家族を支える事の難しさを痛感しました。又、臓器提供後は移植後の経過報告などを直接お会いして報告させて頂いていますが、少しでも辛いお気持ちを支える事ができればと思っています。

3．今後の課題

長期に渡り、日本では死後に臓器提供しようと思っている人や臓器移植を受けたいと思っている人の意思が尊重されない、又、日本で移植が受けられず、海外で脳死移植を受けている現状に種々の批判がありました。この事を考えると、今回の脳死移植では個々の選択を尊重した移植医療の第1歩を踏み出せ、喜ばしい事だと思います。しかし、この移植医療が広く一般社会の信頼を得て、今後も継続されることが最も大切なことであり、今般ご提供なさったご本人やご家族が望んでおられることと思っています。

今回みられたマスコミ報道の行き過ぎや、公平・公正な移植医療を問う移植コーディネーターの初動の時期やレシピエント選択方法、そして救急施設の治療や脳死判定について検証と今後のあり方の検討が公衆衛生審議会で進められています。移植コーディネーターとして臓器提供をされる方の本人意思と家族意思の尊重と移植医療の公平性の担保を念頭にして行動しました。この経験と検証で学んだことを生かし、信頼の得れる臓器移植時の橋渡しの役割を今後も担って行きたいと思っています。

最後に提供されたご本人のご冥福をお祈り申し上げると共に、ご本人の意思を生かされたご家族に深い感謝と敬意を表します。

活動報告

1998年度（1998年4月1日～1999年3月31日）

①会報『Gift of Life』Vol.6 発行　（6月）
②第8回総会　於：ホテルオークラ神戸　（7月2日）
③神戸新聞に啓蒙広告掲載
「あなたの腎臓『私と一緒に生きている』」
兵庫県内53万部配布　（10月11日）
④『全腎協青年交流協会'98』開催にあたり協力
10万円寄付
⑤兵庫県腎移植推進県民大会『Gift of Life』特別講演会主催
於：神戸ポートピアホテル
講師　アルフォンス・デーケン博士
テーマ『新しい死の文化の想像』（10月16日）
⑥日本臓器移植ネットワーク会員となる　（12月）

1999年度（計画）（1999年4月1日～2000年3月31日）

①第9回総会及び講演会開催　於：ホテルオークラ神戸
講師　黒田嘉和氏（神戸大学医学部第一外科教授）
テーマ「糖尿病性腎不全に対する
膵腎同時移植について」（4月24日）
②会報『Gift of Life』Vol.7 発行　（8月）
③神戸新聞に啓蒙広告掲載　（10月）
④臓器移植を考える県民大会を兵庫県と共に主催する
（10月）
⑤日本腎臓学会西部学術学会公開シンポジウム共催
（10月9日）
⑥兵庫腎疾患対策協会設立10周年記念行事

兵庫腎疾患対策協会　会則変更

協会会則　第7章　第30条　この会則は、総会の議決を経て変更する事が出来る
に則り平成10年度総会（平成11年4月24日）に於て可決。

1、〈現行〉　第2章　会員
（種別）
第5条　本会の会員は、次の3種とする。
(1) 正会員　本会の目的に賛同して入会した個人
〈変更〉　(1) 正会員　本会の目的に賛同して入会した個人、または法人ならびに団体

2、〈現行〉　第3章　役員
（種別）
第11条　本会に次の役員をおく。
(1) 会長　一人
(2) 副会長　若干名
(3) 幹事（会長、副会長を含む）　若干名
（選任）
第12条　幹事は、総会において正会員の中から互選する。
2，会長及び副会長は、幹事会において互選する。
〈変更〉　第3章　役員
（種別）
第11条　本会に次の役員をおく。
(1) 会長　一人
(2) 副会長　若干名
(3) 幹事（会長、副会長を含む）　若干名
2，本会は名誉会長をおく事ができる。
（選任）
第12条　幹事は、総会において正会員の中から互選する。
2，会長及び副会長は、幹事会において互選する。
3，名誉会長は、幹事会において推薦する。

3、〈現行〉　入会金および会費規定
第1条　正会員および賛助会員は、入会金として次の金額を拠出するものとする。
正会員　個人　金 7,000円
賛助会員　個人　一口　金 1,000円　一口以上
法人または団体　金10,000円　一口以上
第2条　正会員は会費として、次の金額を拠出するものとする。
年額　金3,000円
〈変更〉　入会金および会費規定
第1条　正会員および賛助会員は、入会金として次の金額を拠出するものとする。
正会員　個人　金 7,000円
法人または団体　金10,000円
賛助会員　個人　金 1,000円　一口以上
第2条　正会員は会費として、次の金額を拠出するものとする。
正会員　個人　金 3,000円
法人または団体　金10,000円